マバカ古墳（第５次）発掘調査現地説明会資料

天理市教育委員会　文化財課

・現地説明会日時
　令和７年２月 22 日（土）13：30～15：30
・所在地　　天理市萱生町・成願寺町
・調査期間　　令和７年１月 28 日～
　　令和７年３月上旬
・調査担当　　天理市教育委員会文化財課
　　主査　村下博美（第５次）
　　主事　森本雅崇（第４次）

１．はじめに

天理市教育委員会では大和・柳本古墳群の基礎調査を継続的に実施し、その保存に取り組んでいます。このたび大和古墳群の基礎調査としてマバカ古墳の発掘調査をおこないました。

２．マバカ古墳の概要

マバカ古墳は天理市萱生町と成願寺町にまたがる全長約 74mの前方後円墳で、大和古墳群中の萱生支群に含まれます。龍王山からのびる尾根上に、前方部を西に向けて築かれており、同じ尾根上には東に波多子塚古墳、西にマバカ西古墳（消滅）が所在します。

３．これまでの調査

奈良県立橿原考古学研究所

昭和 52（1977）年の測量調査により、全長約 74m、後円部径約 44m、前方部幅約 27m の前方後円墳と推定されています。その後、平成 14(2002)年度に前方部西側で第１次調査、平成 15(2003)年度に前方部北西側で第２次調査が実施されました。その結果、前方部西側と北西側で「濠状区画」、前方部西側で「前方部墳端の可能性のある列石」と「墳丘裾廻りのバラス敷き」が確認されました。「濠状区画」からは古墳時代前期初頭の土器が見つかっています。

天理市教育委員会

令和３（2021）年度に航空レーザ測量を実施した結果、墳丘のほとんどが改変を受け、築造時の形状とは異なることがわかりました。また、令和４（2022）年度には天理大学と共同で、後円部北側において地中レーダ探査をおこなっています。

４．天理市教育委員会による発掘調査成果

第３次・第４次調査の成果

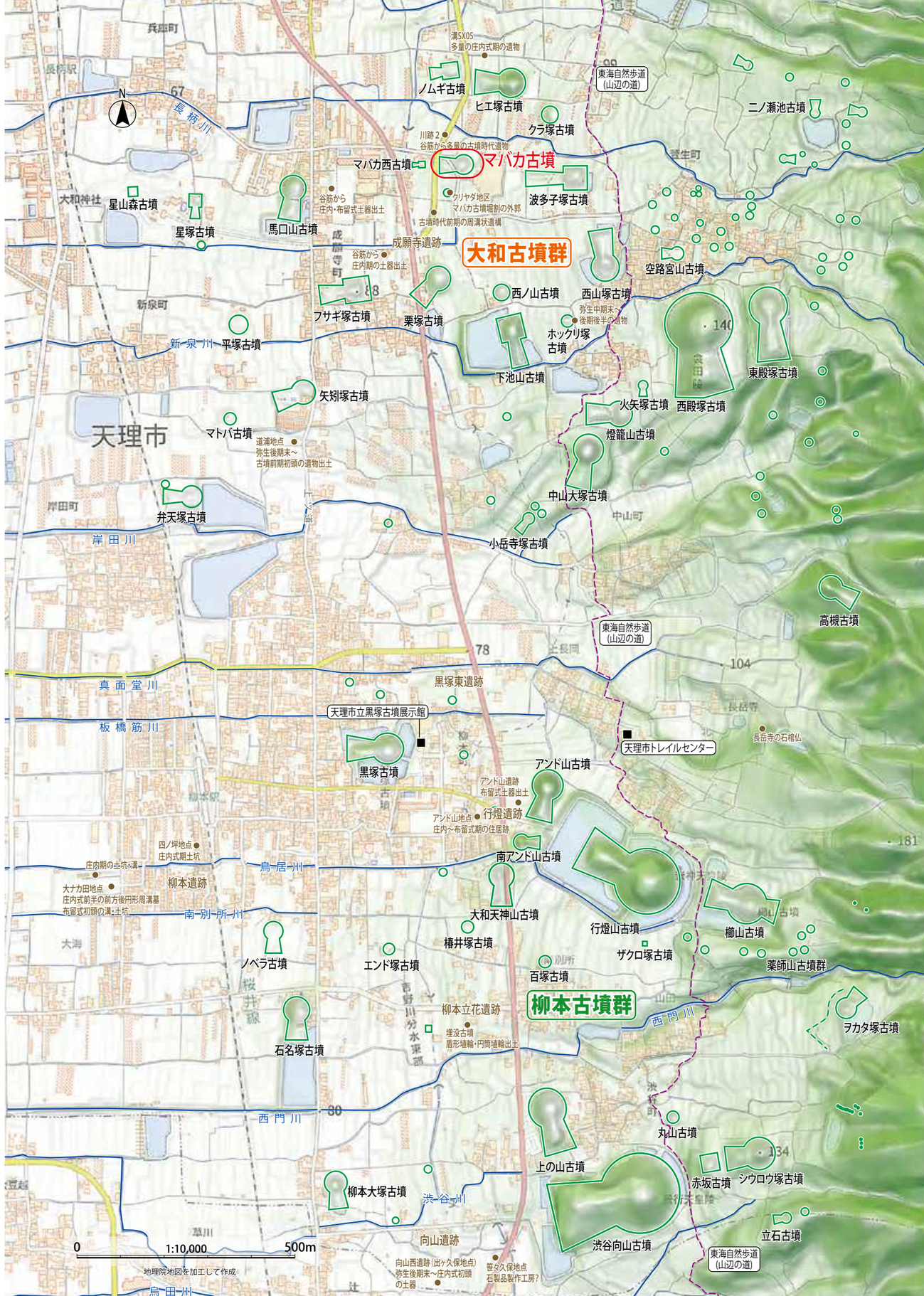
前方部と後円部をつなぐくびれ部の状況を確認するため、北側くびれ部付近を発掘調査しました。その結果、調査区南端で人頭大以上の石が東西に並べられ、少なくとも２段積まれているのを確認しました。前方部に葺かれた葺石の基底部とみられます。基底石列は後円部側に向かってゆるやかにカーブしており、前方部の中でもくびれ部に非常に近い部分と考えられます。また、調査区北寄りでは墳丘から転落してきた葺石石材を確認しています。

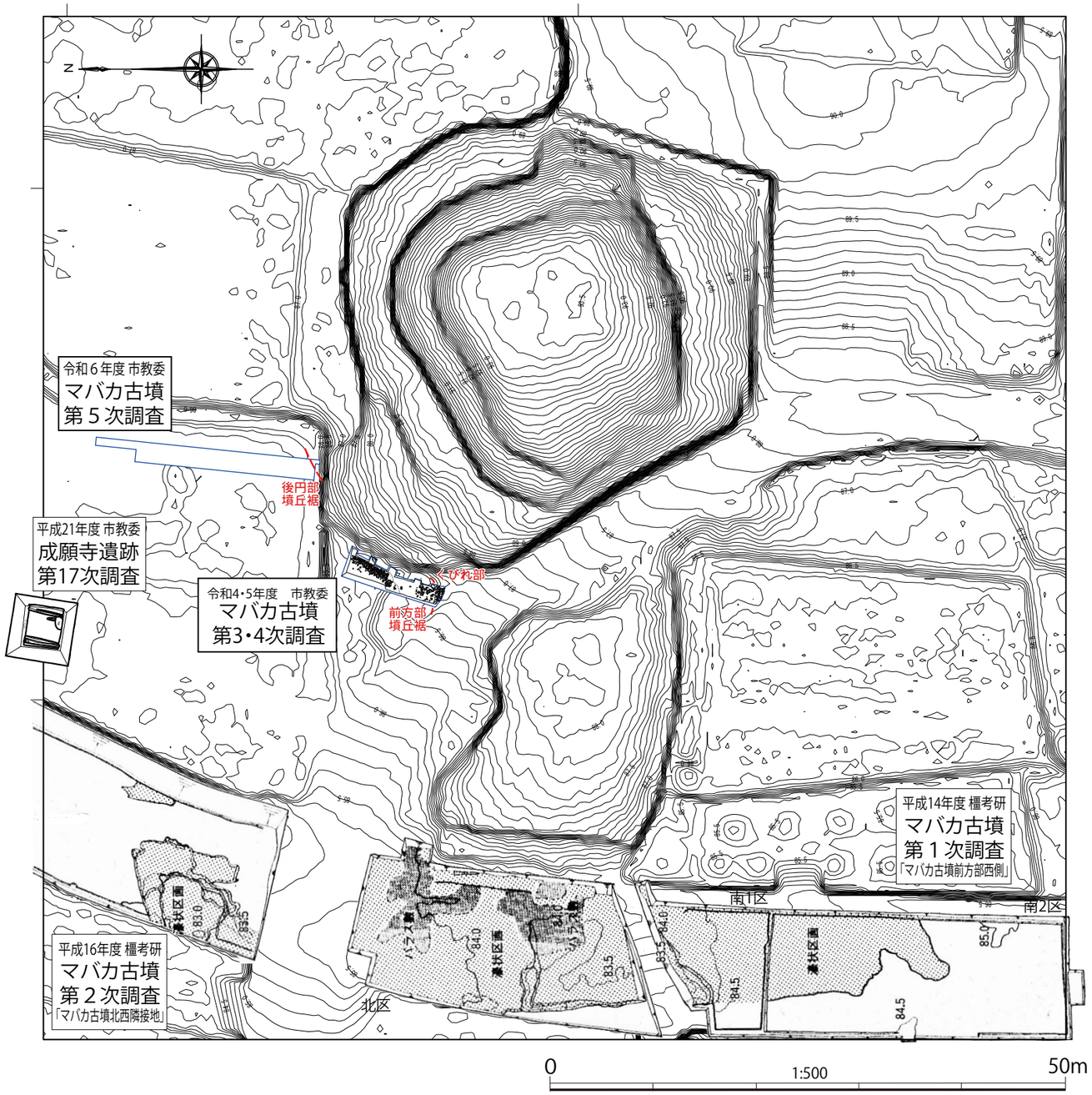
第５次調査の成果

後円部の北側で、全長 22.5m、幅 0.4～２m にわたる発掘調査をおこない、調査区南端で地山の立ち上がりを確認しました。基底石は見つかっていませんが、立ち上がりの下端の標高が第４次調査で確認した前方部の基底石下端の標高とほぼ同じであることから、この立ち上がりが後円部の墳丘裾と考えられます。調査区北半では、範囲は不明確ですが、前方部西側～北西側にみられた「濠状区画」の続きの可能性がある地層や「バラス敷き」のような礫群を確認しました。ただし今回確認した礫群は墳丘裾廻りではなく、墳丘裾から 10m 以上離れた位置にあります。

５．おわりに

前方部と後円部の各１ヶ所で墳丘裾を確認し、マバカ古墳の墳形・規模を考える上で貴重な材料が得られました。天理市教育委員会では、今後も継続して大和古墳群の基礎調査をおこなっていく予定です。





マバカ古墳　調査区配置図

■マバカ古墳全景（真上から・左が北）

■第３・４次調査区全景（真上から・左が北）

■第４次調査区　葺石出土状況（北から）

■第５次調査区全景（北から）
※手前の礫群はバラス敷きか

■第５次調査区全景（真上から・左が北）